

森林に関する基礎的な情報

1. 除染特別地域・汚染状況重点調査地域別の国有林・民有林面積

汚染状況重点調査地域内の森林は、福島県(会津地方以外)のほか、栃木県・群馬県の山間部に多く点在している。

除染特別地域及び汚染状況重点調査地域の面積比率は、全体で見ると国有林・民有林であまり差異がない。(茨城県・栃木県・群馬県は国有林における汚染状況重点調査地域の面積比率がやや高い)

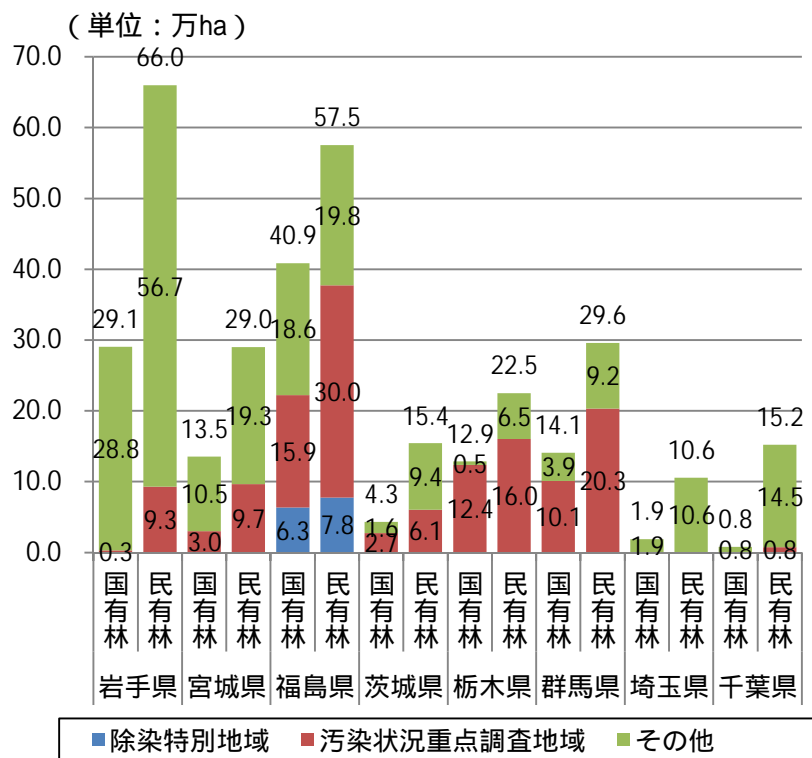


図1. 除染特別地域・汚染状況重点調査地域別の国有林・民有林面積

(出典: 図1・図2のデータ) 国土数値情報 森林世帯データ(H23)を元に作成

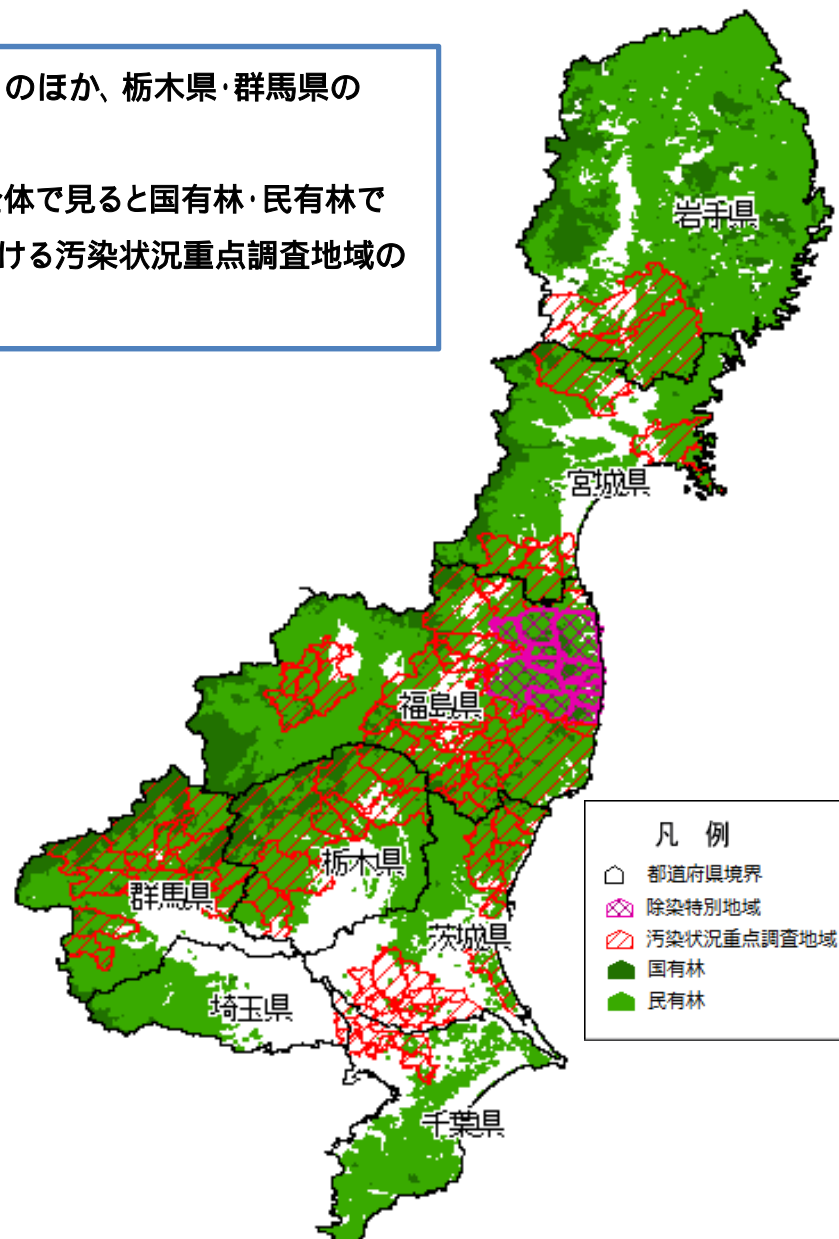


図2. 除染特別地域・汚染状況重点調査地域別の国有林・民有林分布

2. 福島県の森林の汚染状況

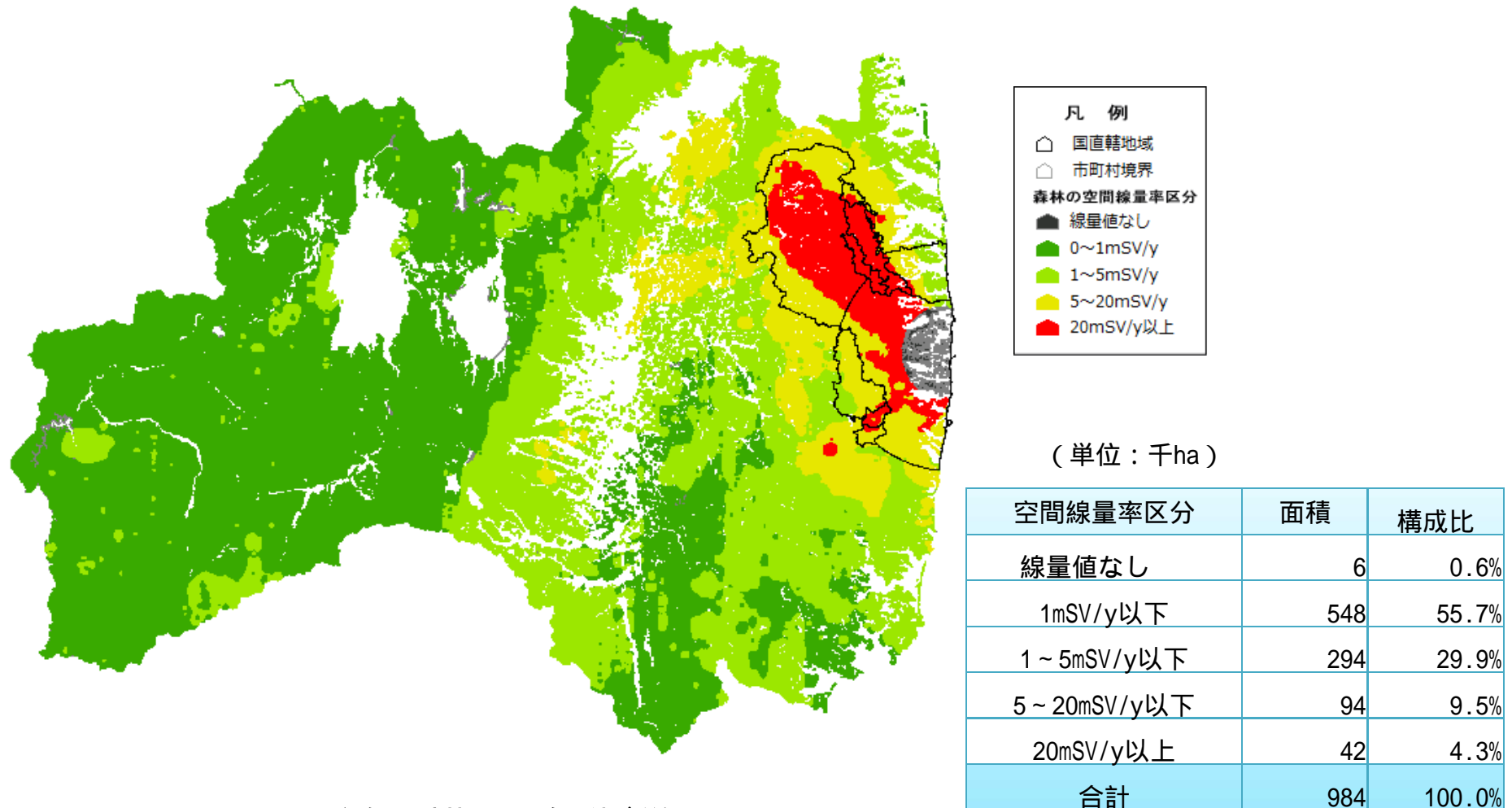


図3. 福島県の森林における年間被ばく線量

表1. 年間被ばく線量別森林面積内訳

「線量値なし」は、福島第一原発から概ね10km圏内にあり航空機モニタリングによる空間線量率データのない範囲。
 (出典)航空機モニタリング結果[9月18日換算値](文部科学省)及び国土数値情報H23森林データ(国土交通省)を用いて作成。
 ・白い箇所は森林以外の土地利用。

(参考) 森林の汚染状況(福島県以外)

(単位:万ha)

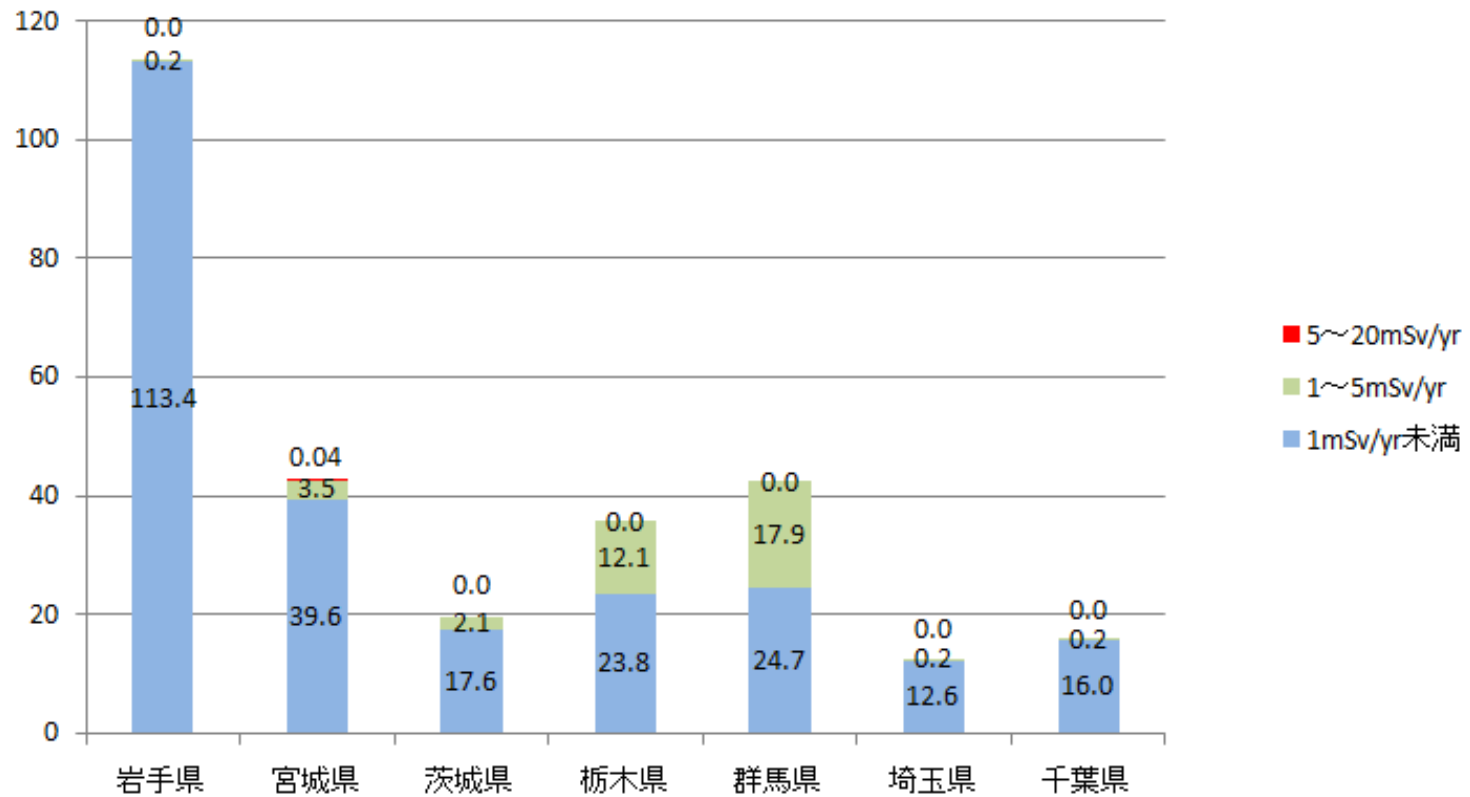


図4. 福島県以外の空間線量率別森林面積

(出典)・航空機モニタリング結果[10月13日換算値](文部科学省)及び国土数値情報平成18年土地利用細分メッシュデータ(国土交通省)を用いて作成

3. 人工林・天然林別森林面積

人工林と天然林の比率は各県であまり差異がなく、概ね半々となっている。
 人工林の多くがスギであるが、栃木県・茨城県・埼玉県ではヒノキの占める割合も比較的高い。
 間伐は、主に人工林を対象に実施される。

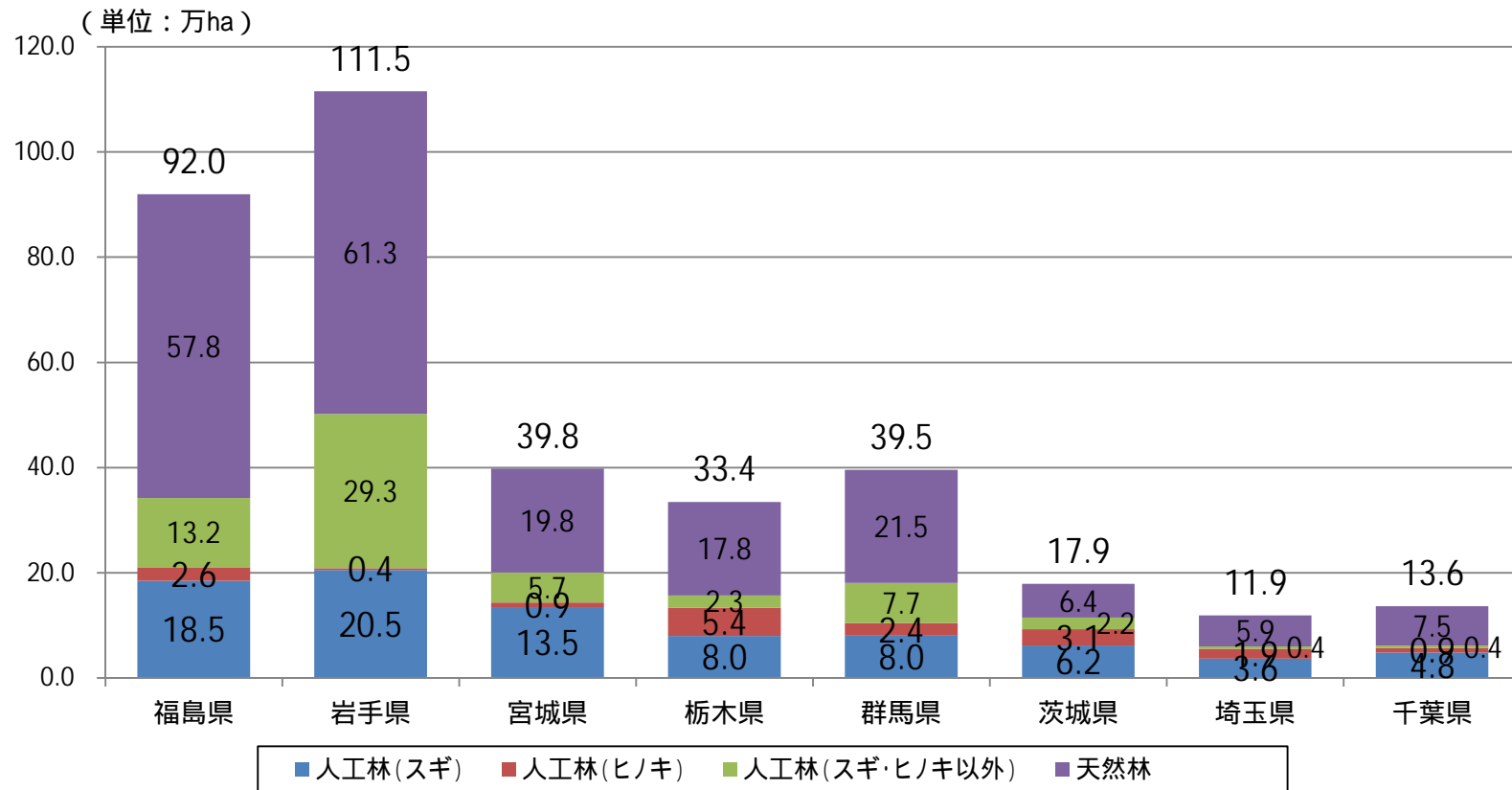


図5. 人工林・天然林の面積内訳

(出典) 森林資源の現況H19

4. 森林整備の状況(間伐等の実績)

植林や主伐(成熟した樹木の収穫)など間伐以外の作業面積は概ね減少の傾向にある。
 福島県・岩手県・宮城県・茨城県では間伐面積が増加傾向にある。

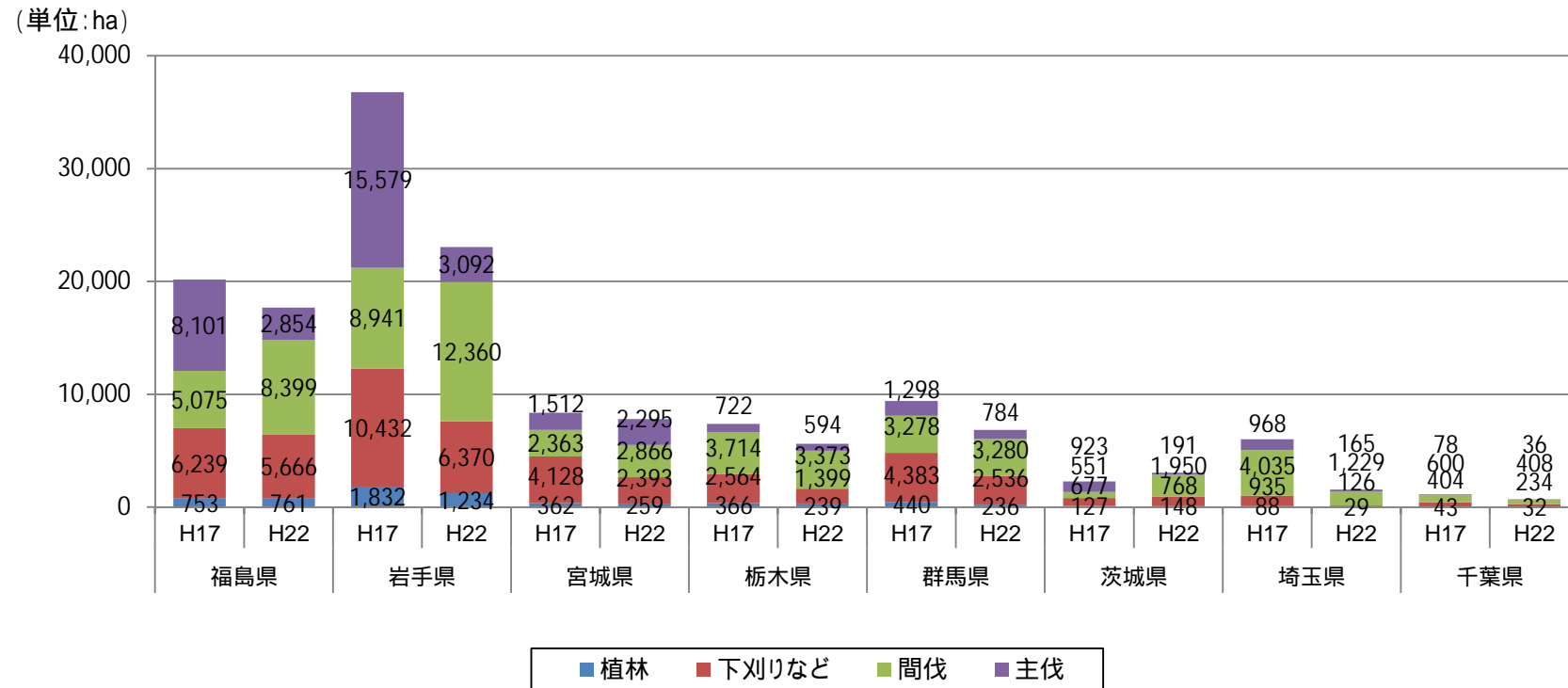


図6. 間伐等の実績

(出典) 世界農林業センサス2010「農林業経営体調査報告書」

間伐等の実績は、林業作業の受託収入がある経営体が受託した各作業別の面積。
 過去5年間で一部の県で間伐面積が増加した要因としては、国が京都議定書の森林吸収目標の達成を目的とし、「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」を制定し、優遇措置等を講じていることなどが想定される。

5. 林業従事者数

林業従事者数は、岩手県・福島県・宮城県・群馬県で1000人を超える水準となっている。
しいたけ生産者数は、岩手県が最も多く、栃木県・福島県と続いている。

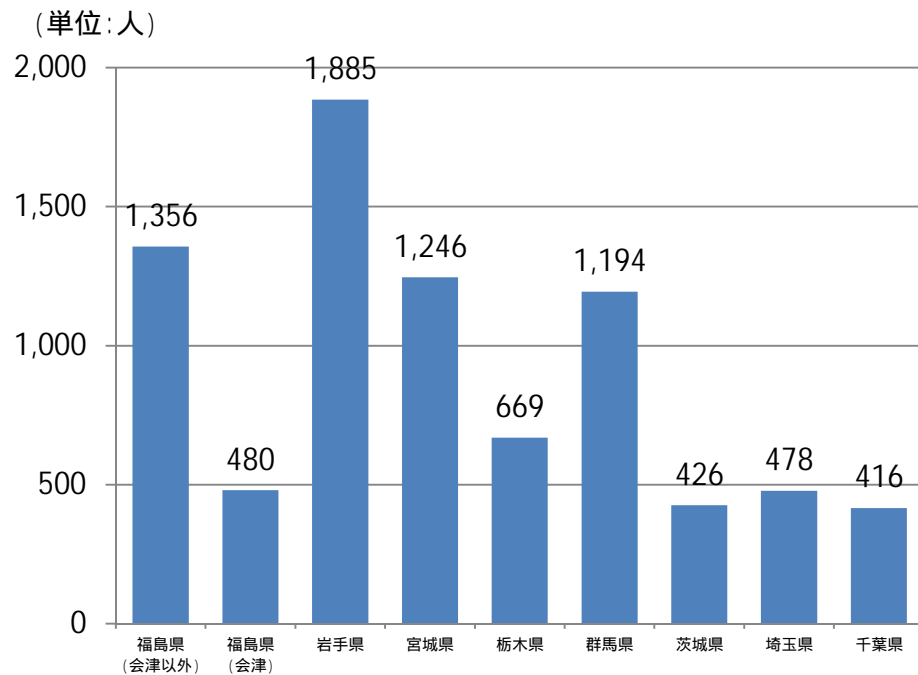


図7. 林業従事者数

(出典) 平成21年経済センサス

民営事業所の従事者数。個人経営の林業活動は対象外。また、しいたけ・たけのこ栽培は「特用林産」ではなく「耕種農業」として扱う(林業でなく農業扱い)ため、しいたけ・たけのこ栽培者は含まれていない。

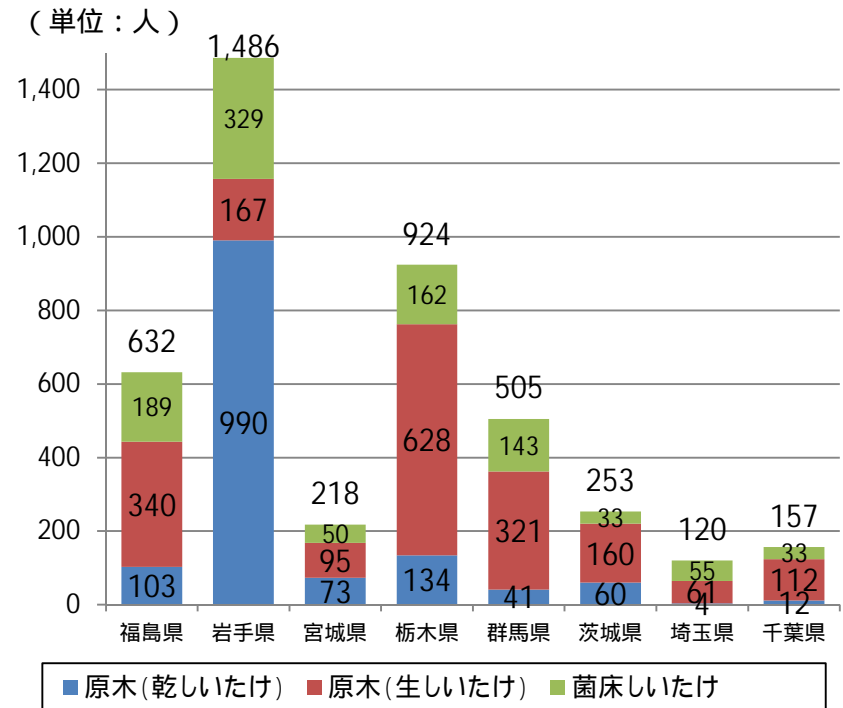


図8. しいたけ生産者数

(出典) 平成22年特用林産物生産統計調査

原木しいたけ生産者数のうち乾しいたけ、生しいたけ両方を生産している場合は、収入が多い方の生産者数に区分している。

6. 林業産出額

林業産出額に占める栽培きのご類の比率は高く、福島県・岩手県・茨城県以外では木材生産より栽培きのご類の比率の方が高い。

しいたけの生産量に占める原木栽培(主に森林内で生産)の比率は総じて低く、多くが菌床栽培(主に施設の中で生産)となっている。

(単位:千万円)

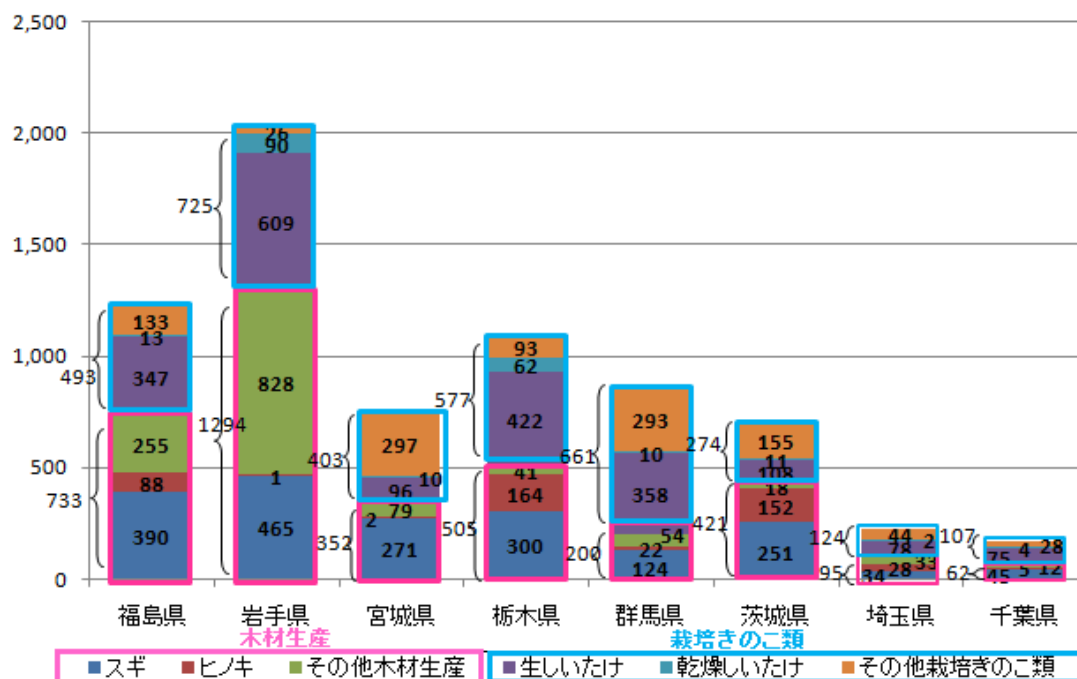


図9. 主要品目別林業産出額

(出典) 平成22年生産林業所得統計調査

(単位:トン)

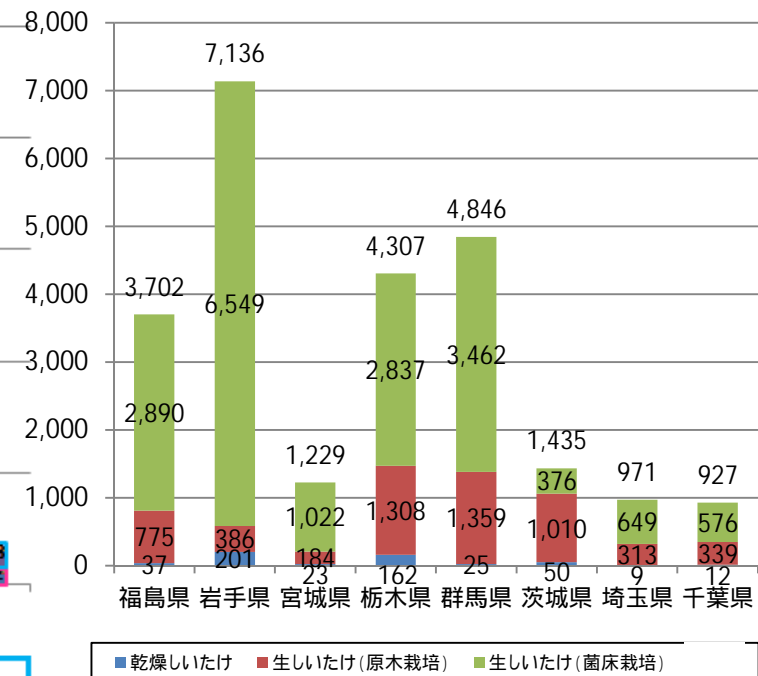


図10. しいたけ生産量

(出典) 平成22年特用林産物生産統計調査

7. 森林レクリエーション施設

福島県は会津地方以外の全てのキャンプ場が除染特別地域・汚染状況重点調査地域内への立地となっており、栃木県も全体の2/3が汚染状況重点調査地域内への立地となっている。
会津地方については、汚染状況重点調査地域内への立地率が低く、県内他地域とは状況が異なる。

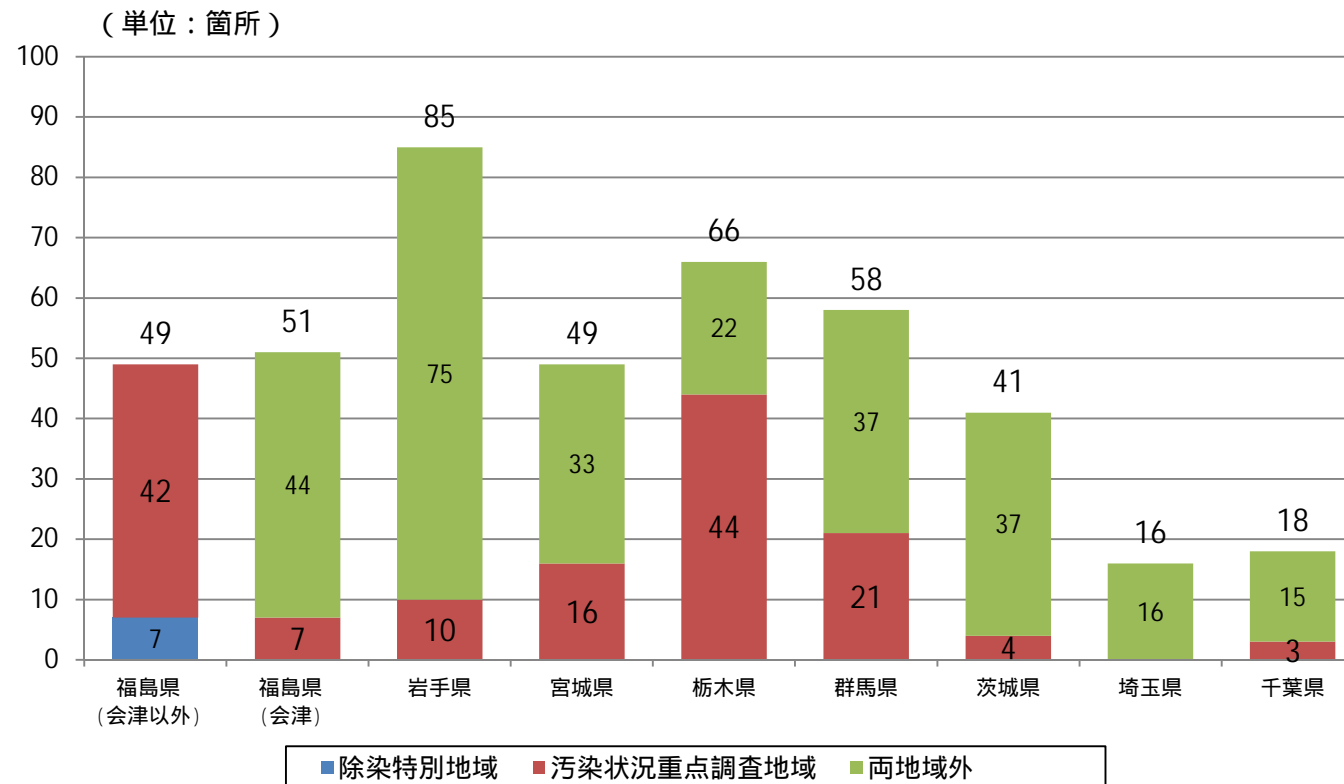


図11. 除染特別地域・汚染状況重点調査地域別のキャンプ場箇所数

(出典) 2000年世界農林業センサス